

令和2年度 学校評価報告書

小樽市立幸小学校
校長 岡田 貴幸

1 本年度の重点目標

共に生きる幸の子 ～想像と創造～

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育 推進 計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校 関係者 評価
			評価	取組状況	
1 未来を創 る力 の育成	確かな学力 の育成	・85%以上の児童が学年別配当漢字の80%を読める。 ・85%以上の児童が、当該学年の基礎計算ができる。 (80%)	B	漢字練習の保護者の添削等を全校で推 進している。2学期末の復習テストでは、 国語87%、算数76%の結果であった。	B
	特別支援教 育の充実	・支援が必要な児童の指導を共有するために、児童 実態交流を2回実施する。	A	係が中心となり、各学級に在籍する支援 が必要な児童に関わった交流を、2回実 施した。	A
	国際理解教 育の充実	・ALTを活用した授業を年に1回以上行う。 ・外国語は好きだと回答する児童の割合を80%以上 にする。 ・「積極的に外国語を聞いたり話したりするようになっ てきている」と回答する保護者の割合を60%以上にす る。	A	全学年でALTを活用した授業を実施し た。81%が外国語が好きだと回答し、 69%が積極的に聞いたり話したりするよ うになってきたと回答している。	A
	理数教育の 充実	・3年生以上の全てのクラスで理科専科担当教員が指 導する。 ・全国学力・学習状況調査の算数において、全国平 均以上にする。	B	理科専科が3年生以上で系統性を保つ て指導している。学力状況調査は不実 施。	B
	情報教育の 充実	・外部講師を招いた情報モラル教室を3年生以上のク ラスで実施する。 ・情報モラルを視点とした道徳の授業を全クラスで実 施する。	B	外部講師を招いた情報モラル教育は不 実施であるが、全クラスで情報モラルを 視点にした、道徳の授業を行っている。	B
	キャリア教育 の充実	・将来の夢を考えていると答える児童の割合を80%以 上にする。 ・用務員や配膳員等の仕事についての理解や感謝に ついて、発達段階を踏まえて全学級で指導する。	A	将来の夢を考えていると答える児童の割 合は92%で、仕事についての指導は全 学級で行っている。	A
改善方策	日常の授業において、TT指導を軸とした指導方法の工夫改善を進めていくとともに、漢字学習の進め方・添削の仕方について、保護者への啓発を進め、家庭学習習慣の充実・定着を図っていく。				
学校関係者 評価委員に よる意見	数値目標は具体性がありわかりやすいが子ども個々のつまずきは見えにくい。それは現場において大きな苦悩と苦闘だが、そこにスポットを当ててこそ、「学校評価」の神髄が得られるものとする。そのあたりの手がかりを検討・改善して欲しい。評議員としての反省多々。正確な評価に苦慮いたします。出来ることなら評議員会等で学校内の事情を深めた議論が出来ればと思います。宿題の見た目が子ども達の興味を引くものになっており、子どものやる気が出た。宿題の出し方で家庭学習への気持ちが向上する。未来を創る力の育成という事で、学力向上のために保護者の添削、ALT活用による外国語を身近に感じるなどの児童の向上心ためにもこれからも継続してもらいたい。				
2 豊かな心 の育成	道徳教育の 充実	・全学級で参観日において道徳の授業を行う。 ・道徳の授業交流を1回以上行う。	C	参観日が未実施である。授業交流につ いても、計画段階である。	C
	ふるさと教育 の充実	・市教委主催のふるさと教育を年に2回以上実施す る。	A	6年生でガラス製作体験を行い、5年生 で博物館学芸員を招いた「小樽の歴史」 についての出前授業・4年生屋形船乗 船は中止。	A
	読書活動の 推進	・60%以上の児童が毎日読書をする。 ・朝読書を週に1回以上行う。	A	図書館司書を活用した図書室の整備等 を行ってきた。60%の児童が毎日読書 をしている。朝読書も各クラスで行っ ている。	A
	体験活動の 推進	・全学年で、ボランティア活動を行う。	A	ゴミ拾い・清掃活動・募金活動・挨拶運 動を、各教科とも関連付けながら、全学 年で行ってきた。	A
	コミュニケー ション能力 の育成	・児童アンケートで、友達の気持ちや考えを想像して いると回答する児童を60%以上にする。 ・児童アンケートで、気持ちが温くなる言葉を使っ ていると回答する児童を60%以上にする。	A	保護者とも協働し、心あったか運動を進 めてきた。気持ちや考えを想像している 児童は71%、温くなる言葉を使っている 児童は81%であった。	A
	いじめの防 止や不登校 児童生徒の 支援の充実	・全クラスで、「ほっと」を行い、積極的な生徒指導を 展開させる。 ・生徒指導委員会(いじめ対策委員会)を毎月行う。	B	「ほっと」を全クラスで行い、その分析を 参考にした積極的な生徒指導を心がけ た。生徒指導委員会は、ほぼ毎月で あったが、不定期になることがあった。	B
改善方策	本年度の省察を踏まえた教育課程を整備するとともに、教育活動における成果、次年度に向けた児童の課題を、ワークショップを行う中で、職員の共有化を図り次年度の重点目標を整えていく。				

学校関係者 評価委員に よる意見	<p>「ワークショップ」をすすめる中で、実践の手応えや成果・実りなどを得ている。この積み重ねを大事にして、これからも粘り強く実践して欲しい。</p> <p>次年度の重点目標を整えて行くことをよろしく願います。幸小学校の児童の成長を心よりうれしく拝見しております。</p> <p>コロナ禍で参観日がなかったのが残念。</p> <p>学校全体で読書活動に取り組んでいて、読解力の向上に期待でき、基礎学力の向上、豊かな心の育成により、他人を思いやる気持ちをもつことが期待で、継続願いたい。</p> <p>学習面・人とのコミュニケーション・気遣いなど、成果が表れていると感じています。今後も引き続きのご指導に期待しています。</p>
------------------------	--

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	・新体力テストにおいて個人内での数値を以下のように伸ばす。 ① 反復横跳び +3回 ② 20mシャトルラン +3回	B	①は37%、②は34%の児童が+3回を越えた。記録が伸びた児童は7割を越えた。	B
		食育の推進	・児童アンケートで「早寝、早起き、朝ご飯」がしっかりとできていると回答する児童を90%以上にする。	B	生活リズムチェックシートの活用や、学校便り等で啓発活動を行ってきた。84%の児童ができていると回答している。	B
		健康教育の充実	・生活リズムチェックシートを年に2回以上実施し、生活習慣に関わった啓発を行う。	A	3学期に2回目を実施。振り返りを行ってきた。	A
改善方策	生活リズムチェックシートの活用を進めるとともに、新体力テスト複数回実施することで、次年度に向けた本校児童の課題を整理し、日常の授業(幸サーキット)の中に関わった指導を盛り込んでいく。					
学校関係者評価委員による意見	体力・運動能力などは、目標の具体化や個別化、数値化などの設定がしやすい。それを個々の子どもへ導き、意欲を持たせ、これからも実践してほしい。教養職員の皆様はもとより児童も含め大変努力されている様子が認められます。さらなる改善向上にご尽力いただければと思います。自分の基準値から+3回の目標は厳しいと思いましたが、4割弱の児童が達成出来たことで、自分を越える事を知ることで前向きになれるので、今後の継続に期待します。					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭学習(漢字練習)の保護者の添削を30%以上にする。		A	保護者の添削について、啓発・お願いを進め、66%の保護者が行っていると回答している。	A
		学校と地域の連携・協働の推進	・保護者・地域と連携した地域行事への参加を2回以上行う。	C	潮ねりこみ、PTA行事を予定していたが、不実施。	C
改善方策	保護者の添削率は上がってきている。宿題の内容等について、児童にも保護者にも分かりやすく説明していくことで、子どもの家庭学習を軸とした家庭と学校の連携・協働を図っていく。					
学校関係者評価委員による意見	コロナ禍の中で、これまでの「あり方や対応」が一変。初体験する課題への取組など山積しているが、これから一つ一つじっくりと取り組みたい。コロナによる不実施はやむを得ない事であると考えます。更に地域・保護者・学校現場の連携にご尽力いただければと思います。学校と家庭との連携が上手に出来ていると思いますが、8割程度の家庭での関わりを持って欲しいと思います。地域連携に関しては、コロナ禍の様子をみて継続願います。					
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	・中学校教員による体験授業を1回以上行う。 ・幼保との授業交流を年に1回以上行う。	B	体験入学を実施し中学校教諭による英語の授業を体験した。幼保との連携は引き継ぎは行いが、授業交流は困難であった。	
		教育環境の整備・充実	・教材室の整理を年に2回以上行い、教育課程に基づき緊急度の高いものから備品を整備する。	A	教材室の整理・整備を教科担当教諭が中心になり進めてきた。事務主任とも連携して必要な教材を整備している。	A
		教職員の資質・能力の向上	・公開研究会を実施し、校内研修を活性化させる。 ・研修会に参加後はその環流を行う。	A	公開研究会を実施し、外部からの意見を通して、自校の研究の成果を実感し、課題について整理することができた。	A
		学校運営の改善	・設定した定時退勤日において、その達成率を80%以上にする。 ・職員会議を勤務時間内に必ず終える。	B	定時退勤日はほぼ達成できているが職員会議については、時間内に収まらない事があった。	B
		学校安全教育の充実	・年に3回以上の避難訓練を実施する。 ・各学期に立ち止まり訓練を実施する。	A	立ち止まり訓練を含め、実際に想定した避難訓練を年3回実施した。	A
改善方策	業務改善をテーマに職員によるワークショップを行い、ボトムアップ型の働き方改革を進めていく。小中連携に関わる部署を、小学校・中学校で系統的に整え、生徒指導・学習指導に関わった指針を作成していく。公開研究会を継続的に実施し、本校の授業改善を進めていく。児童全員にPCが支給されるとの事で、今後のプログラミングなどの学習にも役立つことに期待します。働き方改革は難しい問題ですが、今後も達成できるように取り組んでください。					
学校関係者評価委員による意見	公開研への案内をいただきたい。参加することで、何かを感じたり、気づいたりなど、我々の立場を理解する上で役立つものと考えます。重要課題が山積の中、教職員の皆様の頑張りに敬意を表します。児童生徒のためによりしくお願いいたします。					
社会教育に関連する目標(目標6~8)		・学習支援ボランティアを活用した教育活動を1回以上行う。	A	3学期にスキーボランティアを活用し、児童の指導に関わって協力をあおいだ。	A	
改善方策	スキー学習以外でも、本校児童の特性を踏まえた活用の仕方を考えていく。					

学校関係者 評価委員に よる意見	機会があったら、お手伝いしたい。 児童・学校・地域・PTAの協同で人間教育の考察を 色々な体験を通しての人格形成などに期待し、スキーボランティアの活用等、継続してもらいたい。
------------------------	---